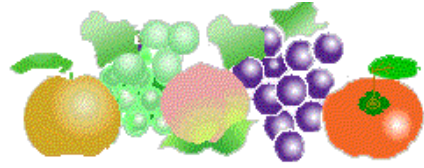


令和4年度 しらかわ果樹情報第12号



令和4年10月25日
福島県県南農林事務所農業振興普及部

1 気象概況（表1）

10月1半旬から4半旬までの平均気温は15.5℃で平年より0.3℃高くなりました。また、この期間の降水量は55.5mmで平年の58.2%と少なくなりました。日照時間は54.6時間で平年の83.7%となりました。

表1 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
10	1	18.5	16.5	2.0	24.5	21.2	3.3	13.8	12.6	1.2	1.0	29.5	3	28.2	19.5	145
	2	12.4	15.6	-3.2	15.6	20.3	-4.7	9.3	11.7	-2.4	49.5	31.4	158	5.5	19.9	28
	3	14.9	14.6	0.3	19.2	19.5	-0.3	12.2	10.5	1.7	5.0	29.0	17	15.1	21.4	71
	4	16.2	14.0	2.2	21.7	18.9	2.8	10.7	9.8	0.9	0.0	5.4	0	5.8	4.4	132
平均・合計		15.5	15.2	0.3	20.3	20.0	0.3	11.5	11.2	0.4	55.5	95.3	58.2	54.6	65.2	83.7

2 向こう1か月の天候の見通し（10月22日から11月18日まで）

向こう1ヶ月の気温はほぼ平年並ですが、2週目は寒気の影響を受けにくいいため、2週目の気温は平年並か高い見込みです。週別の気温について1週目（10/22～10/28）は平年並の確率が50%、2週目（10/29～11/4）は平年並か高い確率が40%、3～4週目（11/5～11/18）は高い確率が40%です。

3 生育概況

（1）「ふじ」の果実肥大

暦日・満開後日数比較ともに、平年より大きい状況です（表2、図1）。

表2 白河管内の果実肥大状況
（10月15日時点）

	ふじ	
	縦径	横径
今年（mm）	79.5	89.4
平年（mm）	76.9	84.8
平年比（%）	103	105
昨年（mm）	73.8	85.3

注）調査地点：白河市本沼

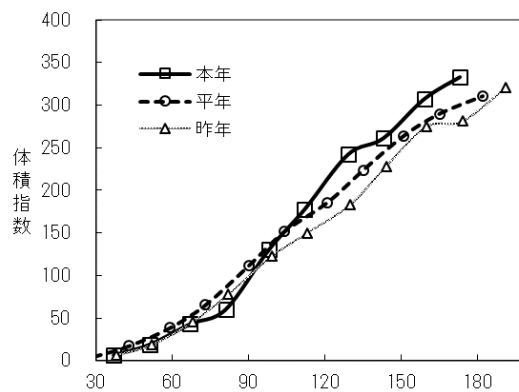


図1 リンゴ「ふじ」の果実肥大経過

4 栽培上の留意点

（1）リンゴ

ア 「ふじ」の収穫前管理・収穫

摘葉、玉回しは遅れないように実施しましょう。収穫に当たっては、蜜入りの状態

に加えて、果実の着色、地色及び食味等により総合的に判断しましょう。

イ 「王林」の収穫

未熟果（緑色果）を収穫すると食味が劣るため、**果面全体に果点が浮き上がってきた果実から2～3回に分けて収穫しましょう。収穫適期は、果皮色が全体に黄色味を帯び、がくあ部付近にやや緑色が残っている状態の時です。**果面から緑色が消えた果実は貯蔵性が低くなるため、収穫が遅れないように注意しましょう。

5 病虫害防除上の留意点（使用薬剤は防除暦を参照してください。）

【収穫期に入っているため、薬剤防除は収穫前日数に十分注意しましょう！】

（1）病害

ア ナシ黒星病

- ・秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染を予防するのに重要であり、**特に、りん片生組織の露出（図2）が多くなる時期が重要な防除時期である（図3）。**薬剤散布は、落葉率80%頃を最終散布の目安とし、オーソサイド水和剤80 600倍を10月中旬以降に2週間間隔で3回散布（キャプタンの総使用回数に留意）する。
- ・散布時は、**降雨前防除を徹底し、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に散布する。**
- ・10月12日時点で、果樹研究所内の「幸水」予備枝におけるりん片生組織の露出芽率は15.3%である。白河地方の「幸水」予備枝におけるりん片生組織の露出芽率は3.0%で昨年より低い、黒星病発病葉率は昨年の2倍となっており、昨年より生組織へ感染するおそれ大きい（表3）。今後さらに芽の露出が増えたと見込まれるため、気象情報に留意して適期に薬剤散布を実施する。



図2 露出した芽りん片生組織（枠内）

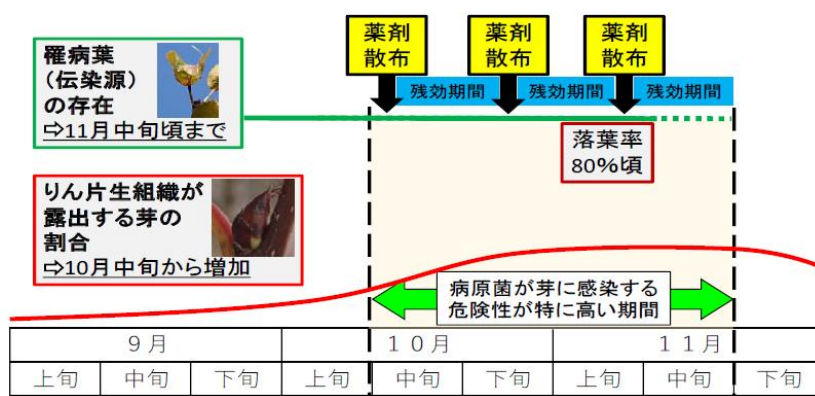


図3 ナシ及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方

表3 白河市における秋期防除時期に関わるデータ

調査年	落葉率 (%)	りん片生組織露出芽率 (%)	黒星病（夏型病斑）発病葉率 (%)
2022	2.5	3.0	1.6
2021	5.3	5.8	0.8

注) 調査地点は両年ともに白河市東上野出島
調査日は両年ともに10月11日

イ モモせん孔細菌病【秋期防除を効果的に行うために、秋季せん定を行いましょう！】

- ・今後の降雨により新梢への感染が懸念されるため、秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図る。
- ・秋期防除を実施するときは、降雨前の防除を心がける。
- ・まだ葉が5割程度付いている状態で3回目の秋期防除を終えた園地は、落葉痕へ感染が拡大するおそれがあるため、状況を見て追加の散布を行う。
- ・今年、晩生品種でせん孔細菌病が多発生し、落葉がまだ進んでいない園地も状況を見て追加の散布を行う。

6 生育調査結果（10月19日現在、福島県農業総合センター果樹研究所）

(1) ナシ

ア 収穫状況

- ・「ラ・フランス」の収穫盛期は10月4日と平年並で、昨年より5日遅くなった。
- ・果実の大きさは319gで平年よりやや大きく、糖度は13.3° Brixで平年並だった（表4）。

表4 なしの収穫状況

品種		収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸	水	8/23	8/24	8/16	8/27	8/29	8/21	9/1	9/4	8/26	447	382	413	11.6	12.5	11.6
豊	水	9/8	9/12	8/30	9/15	9/17	9/7	9/20	9/24	9/13	513	423	430	12.6	12.9	12.5
二十世紀		9/12	9/17	9/7	9/13	9/21	9/7	9/14	9/25	9/7	507	402	452	10.5	11.1	10.4
あきづき		9/21	9/25	9/15	9/26	9/28	9/18	9/29	10/3	9/21	549	462	514	12.8	13.0	12.5
ラ・フランス		10/4	10/4	9/29	10/4	10/4	9/29	10/4	10/7	9/29	319	294	332	13.3	12.9	12.4

注) 平年値は、1991～2020年の平均。

(2) リンゴ

ア 「ふじ」の果実肥大

- ・縦径が88.7mm（平年比108%）、横径が92.7mm（平年比104%）で平年よりやや大きい。
- ・満開後日数による比較では平年より大きい。

イ 「ふじ」の成熟状況（10月19日、満開後177日現在）

- ・果実硬度が12.0ポンドと平年より低く、デンプン指数が4.2と平年並（図4、5）。
- 未熟でも硬度がかなり低いため、食味を確認して収穫してください！
- ・果皮中のクロロフィル含量は平年よりやや高く、アントシアニン含量は平年より低い（図6、7）。

ウ 「ふじ」の裂果発生状況（10月19日、満開後177日現在）

- ・「ふじ」/マルバ台果実の外部裂果率は16.7%、内部裂果発生率は26.7%と過去3年間と比較して少ない傾向（表5）。

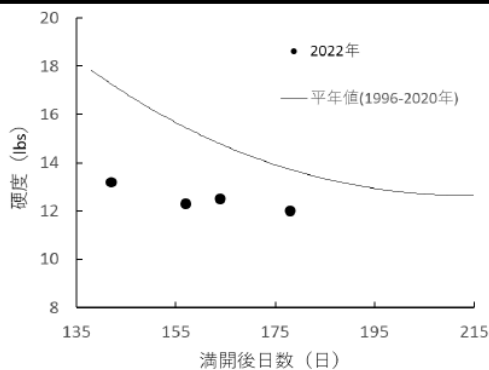


図4 「ふじ」の果実硬度の推移

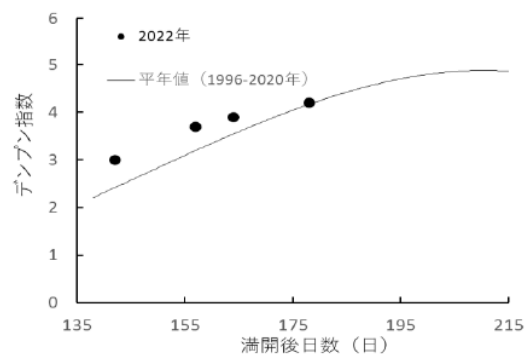


図5 「ふじ」のデンプン指数の推移

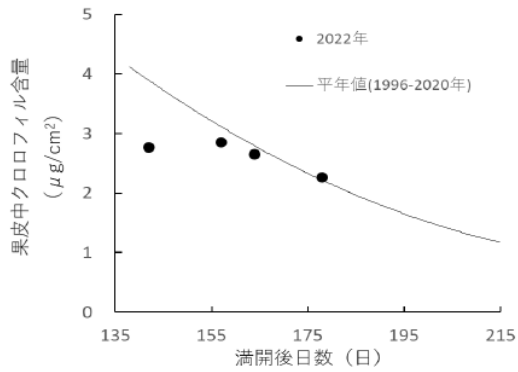


図6 「ふじ」の果皮中クロロフィル含量の推移

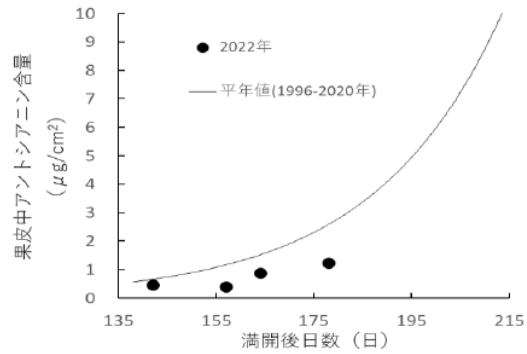


図7 「ふじ」の果皮中アントシアニン含量の推移

表5 「ふじ」の満開後177日頃における裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果率 (%)				内部裂果発生率 (%)			
		2022年	2021年	2020年	2019年	2022年	2021年	2020年	2019年
ふじ/マルガ台	20	16.7	26.7	40.0	10.0	26.7	50.0	63.3	53.3

9月1日～10月31日は秋の農作業安全運動重点推進期間です

安全な農作業のための注意点を確認しましょう。

- 急がず、無理をしない！ ⇒ 余裕を持った作業計画
- 2人以上で作業する！ ⇒ 1人で作業する場合は家族や周囲に行き先を伝える
- 安全な機械操作を心がける！ ⇒ 点検時はエンジンを切る
⇒ 周囲の確認を行う
- 脚立は天板に登らず、雨で濡れている場合は使用に注意する